金融市場動向
— 平成7年11月 —

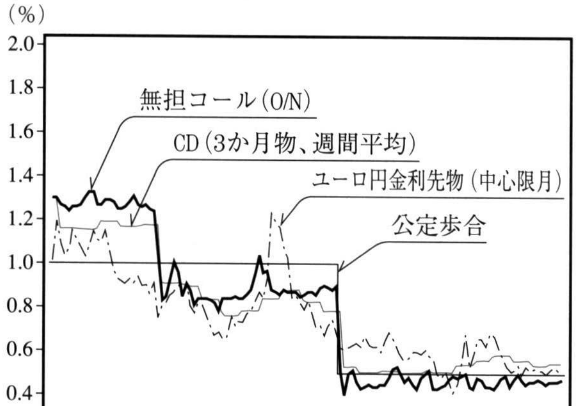
（平成7年12月15日）

1．短期金融市場

11月中の無担コール・オーバーナイト物レートは、概ね0.5%を下回る水準で推移した。ＣＤ（譲渡性預金）３か月物レートは、月中を通じ0.5%台で横這い推移した。一方、ユーロ円金利先物（３か月物、金利ベース）は、中旬にかけ低下し、結局0.5%台前半で越月した。

コール・プロパー手形市場資金平均残高（全国）は、39兆2,106億円と前月（41兆2,735億円）に比べ減少した。

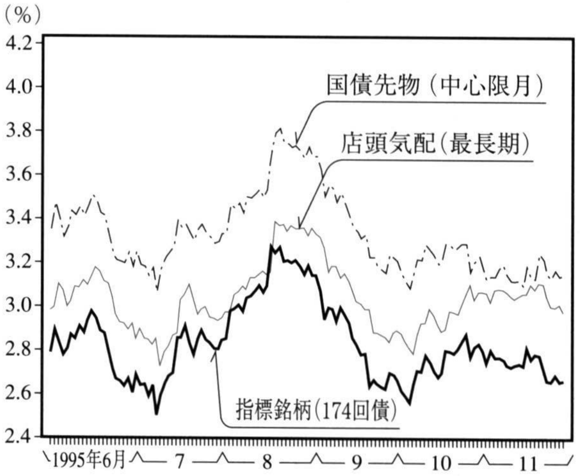
短期金融市場金利



2．資本市場

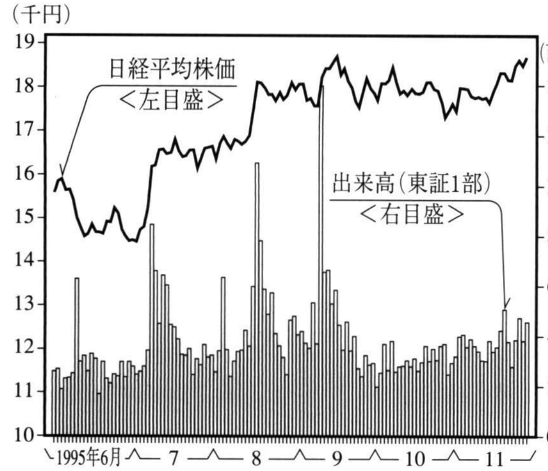
11月の長期国債利回り（174回債）は、下旬にやや低下し、結局2.66%で越月した（前月末2.80%、国債先物中心限月利回り＜21日に95年12月限から96年３月限に限月交代＞は3.147%＜前月末3.186%＞で越月）。国債の出来高は、現物（店頭取引）は前月を下回り、先物は前月を上回った。

既発債市場利回り
—国債市場—



11月の株式市況（日経平均株価）は、月後半に米国株価続伸もあって上昇し、結局18,744円と前月末（17,654円）を大きく上回って越月した。株式出来高（東証１部、月中１営業日平均）は、3.75億株（速報）と前月（3.00億株）を上回った。

株式市場



11月の国内公募普通社債は、一部業種に大型起債がみられたこと等から月中4,604億円（10月4,614億円）と、引き続き高水準の発行となった。一方、国内エクイティ市場での発行（11月払い込み分、増資を除く）は、引き続き低水準の発行となった（10月680億円→11月940億円）。

3．外国為替市場

11月の円の対米ドル直物相場（東京市場）は、月初には104円台まで下落したが、その後は反発して概ね100～101円台の比較的狭いレンジで推移、結局101.66円（17時時点）で越月した（前月末101.90円）。円の対独マルク直物相場（東京市場）は、月初に73円台まで下落した後、独利下げ観測の高まり等から上昇し、結局70.89円（17時時点）で越月した（前月末72.26円）。

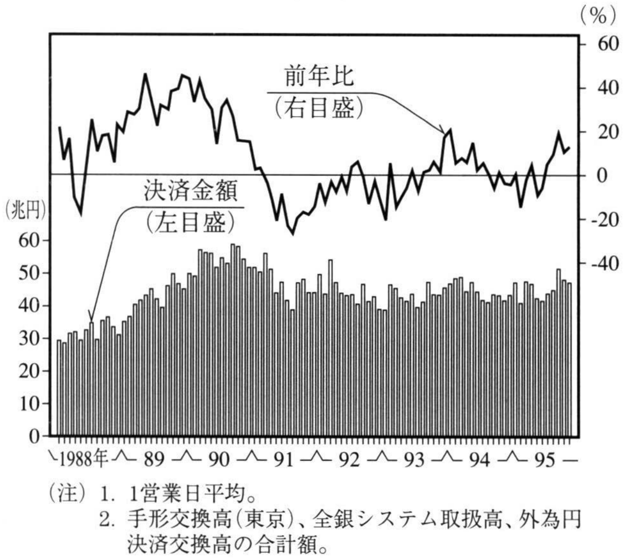
この間、東京外国為替市場の出来高（円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均）は203.6億ドルと、前月（222.6億ドル）を上回った。

外国為替市場

4．決　済

11月の資金決済の金額（1営業日平均）をみると、手形交換高（東京）は前年同月を大幅に下回った（前年比△28.6%）が、全銀システム取扱高は前年同月を上回った（同＋11.0%）。この間、外為円決済交換高は前年同月を上回った（前年比＋24.5%）。また、国債の決済金額（1営業日平均）については、移転登録、振決口座振替ともに前年同月を上回った（移転登録：前年比＋54.7%、振決口座振替：同＋24.6%）。

決済金額



（注）1. 1営業日平均。
2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

5．資金需給、金融調節

11月の資金需給をみると、銀行券要因は1,541億円の不足（前年同月796億円の余剰）となったが、財政等要因が4,525億円の余剰（同4,313億円の不足）となったことから、全体では2,984億円の余剰（同3,517億円の不足）となった。

こうした状況下、日本銀行は売出手形等により資金を吸収した。

12月の資金需給（国債発行織り込み前）を窺うと、銀行券要因は官民ボーナス支払いや年末資金需要から、月中６兆6,500億円程度の不足（前年同月６兆6,266億円の不足）となる見通しであり、財政等要因は、受入面で法人税を中心とする税揚げ等が見込まれるものの、支払面で国債元利払い等の払いが嵩（かさ）むことから、４兆2,000億円程度の余剰（同４兆9,814億円の余剰）となる見通し。この結果、全体では、２兆4,500億円程度の資金不足（同１兆6,452億円の不足）となるものと予想される。

6．マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

10月のM_2＋ＣＤ平残前年比伸び率は＋2.8%（速報）と前月比横這いとなった。また、広義流動性の平残前年比伸び率は＋3.7%（速報）と前月比横這いとなった。

11月の銀行券平残前年比は＋8.4%と前月（＋6.8%）に比べ上昇した。

11月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金＋ＣＤ、都銀、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は＋3.6%と前月比伸び率が上昇した。一方、総貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は＋2.0%と、前月に比べ0.2%ポイント上昇した（７か月連続の前年比プラス）。

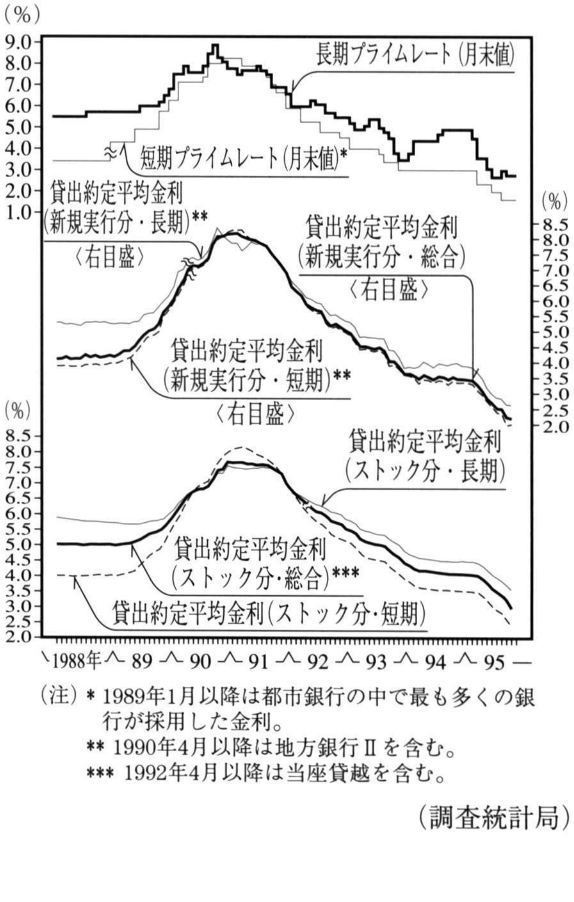
7．貸出・預金金利

10月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分は、短期が９か月ぶりに上昇した（前月比＋0.011%）一方、長期は11か月連続で低下（同△0.037%）した。総合では12か月連続の低下（同△0.027%、９月2.212%→10月2.185%）となり、既往ボトムを更新した。

また、ストック分については、短期、長期、当座貸越ともに低下し（短期：前月比△0.137%、長期：同△0.123%、当座貸越：同△0.128%）、総合では28か月連続で既往ボトムを更新した（総合：９月3.171%→10月3.050%）。

この間、10月の定期預金金利（自由金利分＜１千万円以上＞、３か月以上６か月未満の全銀受入金利平均）は、前月に比べ低下した（９月0.555%→10月0.464%）。

貸出金利（全国銀行）



（注）＊ 1989年1月以降は都市銀行の中で最も多くの銀行が採用した金利。
＊＊ 1990年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。
＊＊＊ 1992年4月以降は当座貸越を含む。

（調査統計局）